

提出締切：2026 年 1 月 13 日 午前 9:00

授業内問題 9.1 次の頂点記述で表される凸多面体 P を考える。

$$P = \text{CH}(\{\mathbf{p}_1, \mathbf{p}_2, \dots, \mathbf{p}_9\}) \subseteq \mathbb{R}^4.$$

ただし、

$$\begin{aligned}\mathbf{p}_1 &= \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}, & \mathbf{p}_2 &= \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, & \mathbf{p}_3 &= \begin{bmatrix} 0 \\ 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}, \\ \mathbf{p}_4 &= \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}, & \mathbf{p}_5 &= \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, & \mathbf{p}_6 &= \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}, \\ \mathbf{p}_7 &= \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}, & \mathbf{p}_8 &= \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}, & \mathbf{p}_9 &= \begin{bmatrix} 0 \\ 1 \\ 0 \\ 1 \end{bmatrix}\end{aligned}$$

とする。

1. 凸多面体 P の次元が 4 であることを証明せよ。
2. 集合 W を次のように定める。

$$W = \{\mathbf{p}_2, \mathbf{p}_3, \mathbf{p}_5, \mathbf{p}_6, \mathbf{p}_8\}.$$

このとき、 $P \cap \text{aff}(W)$ が P のファセットであることを証明せよ。ただし、 $\text{aff}(W)$ は W のアフィン包を表す。

復習問題 9.2 次の超平面記述で定義される d 次元凸多面体 P を考える。

$$P = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^d \mid -1 \leq x_i \leq 1 \quad \forall i \in \{1, 2, \dots, d\}\}.$$

次に挙げる 2 つの点 $\mathbf{v}, \mathbf{v}' \in \mathbb{R}^d$ が P の頂点であることを証明せよ。

$$\mathbf{v} = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ \vdots \\ 1 \end{bmatrix}, \quad \mathbf{v}' = \begin{bmatrix} -1 \\ 1 \\ \vdots \\ 1 \end{bmatrix}.$$

復習問題 9.3 次の頂点記述で定義される d 次元凸多面体 P を考える。

$$P = \text{CH} \left(\left\{ \sum_{i=1}^d (-1)^{s_i} \mathbf{e}_i \mid s_i \in \{0, 1\} \quad \forall i \in \{1, 2, \dots, d\} \right\} \right).$$

次に挙げる $W \subseteq \mathbb{R}^d$ に対して、 $P \cap \text{aff}(W)$ が P のファセットであることを証明せよ。

$$W = \left\{ \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ \vdots \\ 1 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 1 \\ \vdots \\ -1 \end{bmatrix}, \dots, \begin{bmatrix} 1 \\ -1 \\ -1 \\ \vdots \\ -1 \end{bmatrix} \right\}.$$

ただし、 $\text{aff}(W)$ は W のアフィン包を表す。

復習問題 9.4 整数 $d \geq 2$ に対して、 \mathbb{R}^d におけるモーメント曲線とは、関数 $\gamma: \mathbb{R} \rightarrow \mathbb{R}^d$, $\gamma(t) = [t, t^2, \dots, t^d]^T$ を使って

$$\{\gamma(t) \in \mathbb{R}^d \mid t \in \mathbb{R}\}$$

と定義される曲線である。

1. モーメント曲線と超平面の交わりは高々 d 個の点であることを証明せよ。
2. モーメント曲線と超平面の交わりがちょうど d 個の点であるとき、その交わりにおいて、超平面とモーメント曲線は接していないことを証明せよ。

復習問題 9.5 $d \geq 2, n \geq d+1$ とする。頂点数 n の d 次元巡回多面体の次元は d であることを証明せよ。(ヒント：演習問題 9.6 の結果を用いてもよい。)

補足問題 9.6 実数 $t_1, t_2, \dots, t_{d+1} \in \mathbb{R}$ に対して、

$$V = \begin{bmatrix} 1 & 1 & \cdots & 1 \\ t_1 & t_2 & \cdots & t_{d+1} \\ t_1^2 & t_2^2 & \cdots & t_{d+1}^2 \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ t_1^d & t_2^d & \cdots & t_{d+1}^d \end{bmatrix} \in \mathbb{R}^{(d+1) \times (d+1)}$$

として行列 V を定義する。

その行列式 $\det V$ に対して

$$\det V = \prod_{1 \leq i < j \leq d+1} (t_j - t_i)$$

が成り立つことを証明せよ。例えば、 $d = 2$ の場合、

$$V = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 1 \\ t_1 & t_2 & t_3 \\ t_1^2 & t_2^2 & t_3^2 \end{bmatrix}$$

$$\det V = (t_2 - t_1)(t_3 - t_1)(t_2 - t_3)$$

である。(ヒント; 掃き出し法と数学的帰納法を組み合わせてみよ。)

追加問題 9.7 次の超平面記述で表される凸多面体 P を考える。

$$P = \left\{ \mathbf{x} \in \mathbb{R}^4 \mid \begin{array}{l} -x_1 \leq 0, \\ -x_2 \leq 0, \\ -x_3 \leq 0, \\ -x_4 \leq 0, \\ x_1 + x_2 \leq 1, \\ x_3 + x_4 \leq 1 \end{array} \right\}$$

1. 次の点 \mathbf{v} が P の頂点であることを証明せよ。

$$\mathbf{v} = \begin{bmatrix} 1 \\ 0 \\ 1 \\ 0 \end{bmatrix}.$$

2. 次の点 \mathbf{v}' が P の頂点ではないことを証明せよ。

$$\mathbf{v}' = \begin{bmatrix} 1 \\ 1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix}.$$